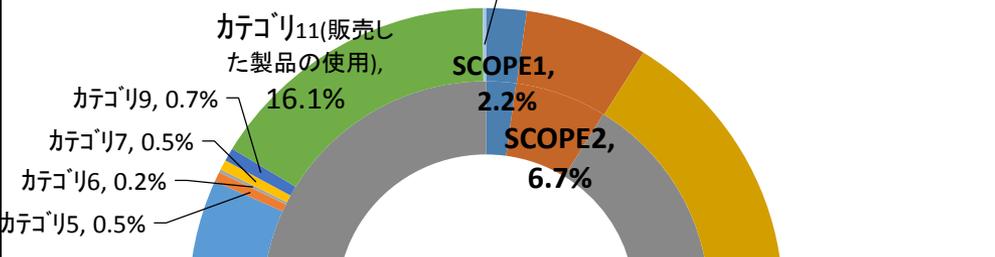


株式会社ファンケル

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：化学 ● 事業概要：化粧品・健康食品の製造・販売 ● 事業規模[任意]：（売上：96,305百万円、拠点数：14、従業員数：1,986名）
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> （目標 2030年に2013年比で26%削減） エネルギーの見える化と工場での燃料転換・電力の再エネ化を推進する。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> Scope3カテゴリ1：サプライヤーとの連携により、容器包装の軽量化、バイオプラスチックの採用を推進。パーム油など主要原料を持続可能な調達に変更。CM、カタログのネット化を推進し お客様が商品を買える機会を増やすことで広告投資効果を倍にする。 カテゴリ4：輸送では、共同配送、宅配の再配達で発生するCO2を「置き場所指定サービス等」で半減する。 またカテゴリ11の使用段階の削減のため、研究開発投資を増加させ研究員比率を倍にする。</p>

株式会社ファンケル

項目	内容																																		
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 (※割合は必須、グラフを挿入) 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 2,898 [tCO2] 																																	
	 <table border="1"> <caption>GHG Emissions by Category and Scope</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Description</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Category 1</td> <td>購入した製品・サービス</td> <td>49.1%</td> </tr> <tr> <td>Category 2</td> <td>SCOPE2</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>Category 3</td> <td>資本財</td> <td>9.0%</td> </tr> <tr> <td>Category 4</td> <td>輸送、配送上流</td> <td>14.0%</td> </tr> <tr> <td>Category 5</td> <td></td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>Category 6</td> <td></td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>Category 7</td> <td></td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>Category 9</td> <td></td> <td>0.7%</td> </tr> <tr> <td>Category 11</td> <td>販売した製品の使用</td> <td>16.1%</td> </tr> <tr> <td>Category 12</td> <td></td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Description	Percentage	Category 1	購入した製品・サービス	49.1%	Category 2	SCOPE2	6.7%	Category 3	資本財	9.0%	Category 4	輸送、配送上流	14.0%	Category 5		0.5%	Category 6		0.2%	Category 7		0.5%	Category 9		0.7%	Category 11	販売した製品の使用	16.1%	Category 12		0.2%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 8,953 [tCO2]
	Category	Description	Percentage																																
Category 1	購入した製品・サービス	49.1%																																	
Category 2	SCOPE2	6.7%																																	
Category 3	資本財	9.0%																																	
Category 4	輸送、配送上流	14.0%																																	
Category 5		0.5%																																	
Category 6		0.2%																																	
Category 7		0.5%																																	
Category 9		0.7%																																	
Category 11	販売した製品の使用	16.1%																																	
Category 12		0.2%																																	
<p>134千トン</p> <p>SCOPE3, 91.2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 122,400 [tCO2] 目標の対象セクター : 																																		

株式会社ファンケル

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが投資引上げにつながることも懸念される。 ● 当社の主要顧客はESGに積極的であり、サプライヤーに対しても、今後GHGの削減要請が高まることが想定される。 ● 自社やサプライヤーの省エネ活動の促進や、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達のコストの削減につながる可能性がある。 ● 自社の省エネ製品の普及が促進される可能性や、率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が2度目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。 ● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待される。

株式会社ファンケル

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● CSR部門で目標案を検討、役員会で社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出。役員会においては、各部門別に温暖化のリスクと機会を検討したことで、野心的な全社目標の必要性を共有できた。● 目標の実現可能性について社内で意見があったが、2030年時点の事業環境の変化は見通せないことや、社会的要請に応じてバックキャストで目標を設定するという方針を説明し、理解を得た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1 の削減において、バイオマス資源の活用が必要であるが、バイオマスの持続的な供給について検討していくことが必要。● Scope2の再生可能エネルギーの導入率を上げるには、まず社員の家庭から褒賞制度「家庭でエコプログラム」を活用しソーラーの導入率を上げ、あわせて会社の導入率も上げる。● Scope3のカテゴリ1の削減目標の達成のために、サプライヤーとの協働と進捗を管理するためのデータの収集が課題。